

日本社会と「恋愛」文化

—歴史社会的考察—

小林風輝

本稿では、日本の明治時代から現代までの恋愛、結婚文化の変遷をまとめていく。その中でも、「恋愛」という言葉が輸入され、婚姻に関する法が確立されてきた明治時代を多く取り扱う。そして、最終的には今後の日本の若者達の恋愛や結婚の仕方についての変化を推測する。

「恋愛」という用語は日本の時代区分では明治時代に輸入された翻訳語である。明治以前では、「情」や「色」、「色恋」などの言葉が使用されていた。当時の翻訳家達は「恋愛」という言葉は「色恋」などの言葉と比べて「崇高なもの」という認識があり、翻訳するのに苦勞をしていたとされる。

言葉と同様に、明治時代は婚姻制度や戸籍制度が確立されはじめた時代である。しかし、明治時代の約45年間を通して見ても、身分制度を超えた「自由」な恋愛、結婚は少数であった。

明治時代を経て、昭和である1960年代後半には身分制度による「見合い結婚」と「恋愛結婚」の割合が逆転し、以後、恋愛結婚が主流となり、2000年代には恋愛結婚の割合は8割を超えた。

現代では、メディアやインターネット、SNSの発展により相手に会うことや、会話をすることが非常に容易になり、新しい人間関係や交際方法が生まれた。しかし、それらの人間関係などは社会的にはまだ容認されているわけではない。これらの関係性はLGBTQ+のように社会から受け入れられる風潮になるのだろうか、もしくは良くない関係性として扱われてしまうのか、今後の取り扱われ方を注目していきたい。